

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090700172		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター 下上津役		
所在地	〒807-0075 福岡県北九州市八幡西区下上津役2丁目11番21号 Tel 093-614-5201		
自己評価作成日	令和03年03月03日	評価結果確定日	令和03年04月05日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	令和03年03月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

バス通りから中に入り、静かな住宅地に中にあり川沿いの散歩コースは毎年桜のトンネルが見事で楽しみの一つです。今は、コロナウイルスの影響で、外出、地域との交流は出来ていませんが、地域との交流を大切にし、町内会の行事に参加、入居者様への理解を深め、地域と共に高齢者を支えていけるグループホームを目指しています。それぞれの今までの生活歴を大切にし、生活リハビリを中心に現有能力を出来るだけ最大限発揮できるように支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ニチイケアセンター下上津役」は、金山川の桜並木沿いの住宅街に位置し、定員18名のグループホームである。コロナ禍以前は、ホームの行事に三味線やフラダンスのボランティアが来訪し、利用者の生き生きとした暮らしに繋げ、運営推進会議に多くの家族の参加を得て意見や要望を聴き取り、ホーム運営に反映させていたが、現在はコロナ対策で自粛している。ホームドクターによる往診と訪問看護師、介護職員が連携し、24時間安心の医療体制が整い、看取り支援にも取り組んでいる。利用者が楽しみにしている食事は、職員が交代で作る美味しい料理を、ほとんどの利用者が完食し健康の源になっている。慢性的な職員不足の中で、経験豊富な職員が、チーム介護で利用者に寄り添い、明るい笑顔を取り戻した利用者を見守る家族からは喜びと感謝に包まれ、利用者と家族と深い信頼関係が築かれているグループホーム「ニチイケアセンター下上津役」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11.12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしくいつまでも、ありのままの姿で生活できるように地域と共に高齢者を支えていくことができるように地域と共に高齢者を支えていくことができるグループホームを目指します。」という理念を共有し実践しています。	全体会議や毎日の申し送り時に、経営理念、社是を出勤職員で唱和し、職員は理念の意義や目的を理解し、利用者の生活習慣に配慮し、利用者本位の介護の実践に取り組んでいる。また、地域密着型事業所として、頼りになるグループホームを目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し回覧板を通して、地域の理解に努めている。	コロナ対策以前は、利用者と職員は地域の一員として回覧板を届けたり、どんど焼きや地域の清掃活動に参加し、散歩や買い物、満開の桜見物等の機会に、地域の方と世間話で、日常的に交流を図っている。ホーム行事にボランティアを招き、楽しい時間を過ごしている。	コロナ収束後は、1階のホールを地域交流スペースとして地域に開放し、地域の会議や集会、教室等に使用してもらったり、介護相談や介護教室を行う等、開かれたホームを目指す取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護保険に関する相談を受け付けている。コロナウイルスの影響で、積極的な活動は控えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	通常は2ヶ月に1度開催だが、コロナウイルスの影響で、現在は、運営推進会議を中止している。	運営推進会議を2ヶ月毎に土曜日開催にすることで多くの家族の参加を得ている。ホームの運営や利用者の状況、主な活動、出来事、事故、行事予定を報告し、参加者から質問や意見を受け、出された意見を、サービスの向上に反映させている。	運営推進会議の開催について、家族が参加しやすい土曜日開催と、地域包括や他の委員が参加しやすい平日の開催を柔軟に取り入れ、メンバーの増員と内容の充実を図ることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターへの相談は行っている。また、空室時の状況の問い合わせを受けたり状況を報告している。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの運営や利用者の状況を説明し理解を得ている。管理者は、空き状況や事故等の報告を、行政窓口へ足を運んで行っている。介護の疑問点や困難事例を相談し、意見や情報提供を受けて連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会より報告し、定期的に会議の場でチェックリストを用い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員会議の中で身体拘束の勉強会を毎月行い、禁止行為の具体的な事例を挙げて検証し、身体拘束が利用者にも与える影響を職員一人ひとりが理解して、職員間で振り返りをしながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加や勉強会を実施している。報告・連絡・相談の徹底をする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施している。	権利擁護の勉強会の中で、制度について学ぶ機会を設け、職員が理解出来るように取り組んでいる。ポスターを玄関ホールに掲示し、制度の資料を用意して必要時には、制度を活用できるよう支援し、利用者の権利や財産が不利益を被らないように取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、一つ一つ確認しながら理解していただくように説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と連絡を取り、サービスへの反映に努めている。	職員は日常会話の中で、利用者の意見や要望を把握し、実現できるよう取り組んでいる。2ヶ月毎の家族会や面会時、本部が行う顧客満足度のアンケート調査等、意見や要望を表せる機会が多く、サービスの足りないところ等の要望を受けて、改善に向けて取り組んでいる。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議を行い意見を聞いている。個人的にも相談しやすい環境を心がけている。	毎月、職員会議を定期的開催し、職員の意見や要望が出し易い雰囲気の中で、活発な意見交換が行われている。毎朝の申し送り時に職員間で話し合う機会を設け、気付きや心配な事等を話し合い、管理者に相談して速やかに解決に向けた取り組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って仕事ができるよう介護に対する考えやヒヤリングを行っている。キャリアアップの制度の活用や資格取得への助言指導を行っている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用マニュアルを参考にし年齢・性別その他のことでも不利益にならないよう配慮している。職員に関しては、個々の性格を理解しそれぞれの持っている能力が發揮できるよう助言し、指導している。	管理者は、職員の特長や能力を把握し、生き生きと働くことが出来るよう、適材適所に人員配置し職員の定着に繋げている。職員の募集は年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や介護に対する考えを重視して採用している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者の自立と尊厳を念頭に置き、勉強会を行っている。 お客様の笑顔が毎日見られるような介護、自分が高齢者になり入居したいと思える施設を目指し指導します。	利用者の人権を守る介護の在り方を、職員会議の中で話し合い、言葉遣いや対応に注意し、利用者が安心してホームの中で暮らせる環境整備に取り組んでいる。また、職員は理念を常に意識し、理念に基づいた介護が出来ているかを確認しながら、日常介護に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内では入社時、採用時研修に始まり経過を踏まえて対象者にテクニカル研修を行うようにしている。外部研修にも参加するようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や勉強会に参加することで他事業所との交流を図れるようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前にご本人の面談とセンター方式を使い生活歴を知ることで早くなじみの関係が作れるように配慮している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や申し込みを頂いた際、契約を行なう時に困っていることや要望を聞きだせるよう心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式を用い必要とする支援を見極めるようにしている。またご本人様との会話の中からそれとなく引き出せるように心がけている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様の立場に立った考え方をしながら個々の状態に合わせた接し方をしている。またなじみの関係を作ることで安心した生活ができるように配慮している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	変化があった時はすぐにご家族に相談している。コロナウイルスの影響で、面会はオンライン(リモート)とさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際には、自宅で使っていた馴染みの家具や寝具を持って来て頂き居室内がご本人にとって安心できる空間作りをしている。	コロナ対策以前は、利用者の友人、近所の方の面会時に、ゆっくり話ができるように配慮し、また来てもらえるようお願いしている。家族の協力で、病院受診や買い物、外出に出かけてもらい、利用者が長年築いてきた人間関係や地域社会との関わりが、ホーム入居で途切れないように支援していたが、現在は自粛中である。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性を尊重し得意なことを反映できるようにプランの中に入れている。生活リハビリを中心に出る事を役割分担し同じ時間を過ごせるようにサポートしている。共通の話題を提供し会話を楽しくめるよう橋渡しをしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他にご入居の場合は、情報提供をしている。また、ご家族からの電話などで相談がある時は、その都度相談を受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用する事で本人の意向をできるだけ明確にしカンファレンスで検討し、実現できるようにしている。また雑談の中から思いや希望を聞き取り意向の把握へとつなげている。	職員は、日常の関わりやセンター方式の活用、家族からの情報で利用者の意向把握に取り組んでいる。意向表出が困難な方には、家族に相談したり過去のアセスメントを振り返り、職員間で話し合い、利用者の思いに近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に協力していただきセンター方式でこれまでの生活歴を把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事出来ないことシートを用いて現在有能力を最大限に発揮できるよう支援している。また状態が変わるごとにカンファレンスを開き把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを開き現状を把握、検討、モニタリングを通じて介護計画書に生かせるに努めている。また必ず家族の意見を聞き取り生かせるようにしている。	職員は、利用者や家族の意見や要望、心配な事を聞き取り、担当者会議の中で検討し、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。利用者の状態変化や重度化に合わせて、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画の見直しをその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添った実践の記録はもちろんだが今までになかった行動や発言の記録から新しい情報をスタッフが共有し必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応できるようスタッフのシフトを変更し出勤人数を多くすることで外出や行事の充実を図っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響で、地域との交流は控えている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	異常の早期発見に努めかかりつけ医と連携を図りながら心身の状況の把握に努めている。	入居時に利用者や家族の希望を優先して主治医を決定している。馴染みのかかりつけ医の受診は家族対応でお願いし、ホーム協力医の月2回の往診と訪問看護師、介護職員の連携で、利用者の健康管理は安心して任せられる体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取っており、週に健康チェックに来てもらっている。問題がある時は相談を行い、24時間対応が可能となっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や看護師と連携を取り早期退院に向けて調整するように心がけている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の基本的な指針は説明している。ご本人の状況を踏まえうえで医師やご家族と検討を行っている。ターミナルの場合は医師から指導を受けスタッフが情報を共有し統一したケアを提供している。	契約時にターミナルケアについて、利用者や家族にホームで出来る支援について説明し承諾を得ている。利用者の重度化が進むと、家族と密に連絡を取りながら、主治医も交えて方針を確認し、関係者で方針を共有して、医療行為がない方は看取りの支援を行い、人生の最期をゆったり過ごしてもらえよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を開催し、緊急時の対応を学びスタッフが全員対応できるようにしている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回消防署の指導の下、防災訓練や自主消防訓練を実施。防災マニュアルを設置している。	非常災害を想定した避難訓練を、昼夜想定で年4回実施し、安全に避難誘導できる体制を整えている。また、非常時に備えて非常食、飲料水、災害用の電池やラジオ等の備品を用意し、いざという時に慌てないように取り組んでいる。	「台風・豪雨・風水害対策マニュアル」や「避難確保計画」を作成しているが、川が近いため、水害を想定して実際に階段を使って2階に上がる訓練を実施したり、災害に備えて、地域との協力体制を築くことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体会議時、定期的にスピーチロックの話し合いを行う事で意識を高めている。高齢者の尊厳を守るように努力している。また個々に合わせた言葉かけの工夫や対応をしている。	利用者の人権を守る介護の在り方を職員間で常に話し合い、言葉遣いや対応に注意し、プライドや羞恥心に配慮して、利用者の尊厳のある暮らしの支援に取り組んでいる。また、個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が職員に常に説明している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを表出できるような馴染みの関係づくりを心がけている。また自己決定ができるような声かけを工夫し職員主体にならないよう努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝の時間もある程度は希望に添うようにし、ご本人のペースで過ごせるようサポートしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で決めて頂けるような声かけを工夫している。また、訪問理美容にて自分のヘアスタイルができるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に準備、片付けができるようにしている。時折、希望に添った出前を取ったり一緒にスイーツを買いに行ったりしている。	利用者の嗜好を聴きながら、職員が交代で作る美味しい料理を提供している。外食レクや誕生日にはリクエストに応じて出前を取る等、利用者が楽しんで食事が出来るよう支援している。利用者の力に合わせて、お茶パック作りやいりこの頭取り、台拭き、茶碗拭き等を手伝ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分をチェックし十分摂取できるよう個々に合わせた工夫支援を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に合わせて仕上げ磨きなどを行っている。また、訪問時に訪問歯科へ相談、指導も受け、個々に合った口腔ケアを実施している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時にセンター方式にて排泄パターンの把握をし時間ごとのトイレ誘導にて不必要なオムツの使用はしていない。羞恥心に配慮した言葉かけや誘導などを支援している。	利用者が重度化してもトイレで排泄を基本とし、職員は、利用者の排泄パターンを把握し、早めの声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。立位を保てる方が少なくなっているが、場合によっては2名で介助を行っている。夜間帯は、本人の希望を聞いて柔軟に対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘についてカンファや勉強会を行い対応している。水分量や食事の内容に気をつけ提供している。活動性を高める支援をしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回程度の入浴を心掛けている。また、季節の行事や入浴剤などでも楽しんで頂いている。	入浴は、利用者の希望や体調に配慮しながら週3回を基本とし、湯船にゆっくり浸かってもらい、利用者職員が一对一で会話しながら、菖蒲や柚子、入浴剤等を入れて、楽しい入浴になる様に支援している。入浴を拒む利用者には、清拭や足浴で対応し、無理強いのない入浴支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動性を上げることで心地よい睡眠が取れるようにしている。消灯時間は決めておらず、個々に合わせ対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理日誌にて申し送りをし周知徹底をしている。服薬介助方法はマニュアルを用い指導している。また薬局の居宅管理指導も受けている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のできることを見つけ介護計画書の中に取り入れている。散歩やレクリエーションで気分転換を図っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響で、外出は控えている。	コロナ対策以前は、ユニット毎にお出かけレクを行ったり、天気の良い日には近隣の散歩や買い物に出かけ、利用者の気分転換に取り組んでいる。また、家族の協力を得て、外出や帰宅支援に取り組み、利用者の生きがいに繋がる外出支援を行っている。	職員配置を工夫したり、家族やボランティアの協力を得て、日常的な外出の機会を増やしていくことを期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人への外出支援は控えており、買い物は、ご本人様の要望されている物を、職員が購入している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば何時でも電話できるようにしている。レクリエーションの中で年賀状や暑中お見舞いなど書いて頂けるよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が分かるように、お客様と共に、壁紙作成、飾り付けして、集える環境作りに努めている。	毎月、季節感を取り入れた壁紙を作成したり、手作りのカレンダーを飾っている。環境美化委員が中心となって環境整備に取り組み、温度や湿度、音や光、臭いなどにも配慮し、清潔感のある共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	今のテーブル席以外にも椅子を設置し、好きな場所でくつろいで貰えるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安心、安全に生活できるようそれぞれにあった環境整備を配慮している。また、入居時に使い慣れた物を持って来て頂くようお願いし寛げるお部屋作りを心掛けている。	利用者の馴染みの家具や寝具、家族の写真や仏像等、本人にとって大切な物を家族の協力で持ち込んでもらい、生活環境が急変しないように配慮し、安心して過ごせるように小まめな換気や清掃を心掛け、気持ちよく過ごせる居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式を用い出来る事できない事を把握した上で安全に生活できるよう配慮している。		